

## 主 題：教会の建て方6

## 聖書箇所：エペソ人への手紙 4章14-15節

神によって教会が建てられるときに、そこには必ず完全な成熟さに向かって進んで行く成長の過程があります。私たちはそのことをエペソ人への手紙から学んでいます。4章11節から13節で見たことは、キリストが教会に対して賜物を持った者たちをお与えになり、その教会のリーダーたちは賜物を用いてみことばを教えることを通して、また、熱心に祈ることを通して、教会に集うクリスチャンたち、聖徒たちを整え、整えられた聖徒たちは教会において奉仕の働きを熱心に為し、教会が建てられて行くということでした。そして、その計画はすべてのクリスチャンたちが教理において一致し、キリストに対する献身において一致し、ついには、キリストに似た者へと完全に成熟するそのときまで続くということを、前回皆さんといっしょに見ました。私たちは必ずこのゴールに到達します。その時は、私たちが愛して止まない私たちの主イエス・キリストが、この教会のために私たちを迎えに来てくださるときです。そのときまで神の設計図は完全な形では完成しません。けれども、私たちがキリストと顔と顔を合わせてその姿を見るときに、私たちは完全に神の子の似姿に変えられることが聖書を通して私たちに約束されています。その時に、私たちクリスチャンは全員が完全な形で教理において一致し、キリストに対する献身において一致し、完全に成熟した者としてキリストの前に立つようになるのです。

教会に対して与えられた設計図、それはこのキリストがやって来られるそのときまで続くことを前回私たちは学びました。それゆえに、私たちは新しい設計図を作る必要はありませんでした。私たちは今から二千年前に神が教会のためにお与えになったこの設計図を、二千年経って時代が変わったから新しいものに変えなければいけない、手を加えなければいけないなどとする必要は一切ないのです。なぜなら、この計画は最初からキリストが再び来られるまでの設計図として与えられていたからです。教会にとって唯一無二の真の設計図とは、神が与えてくださったこの設計図しかないのです。神が与えてくださったこの計画が正しく施行される時、すなわち、教会に与えられている賜物である教会のリーダーたちが正しくみことばを解き明かし、正しく祈り、教会に集っている聖徒たちを整える働きを熱心にし、整えられた聖徒たちが自分たちに与えられている賜物を用いて奉仕の働きを行ない、教会が建てられて行く時に、そこには必ず結果が伴って来ます。与えられた設計図に沿って教会が建てられて行くときに、そして、その教会に集う一人ひとりがその設計図を正しく受け入れて、それに沿って誠実に神の前に忠実に歩んで行くときに、そこには必ず結果が生まれます。

それはちょうど、建物を建て始めて行くとき一日毎に完成へと近づいて行くのと同じようです。キリストの再臨の時まで、その完全な完成を見るまで、教会が正しく設計図通りに働きを為し、教会員たちがそれをしっかりと受け入れ、それを実践して行くなら、そこには必ず教会が建て上がって行くという結果を見ることが出来るはずで、それゆえに、パウロはそのことを私たちに教えようと、このエペソ4章14節から16節に、この結果について記しているのです。そこには私たちがキリストがお与えになった設計図に沿って教会が建て上げられて行くときに、私たちが見るべき結果が記されています。

今朝、皆さんといっしょにこの箇所から私たちに教えられている大切な事柄をいくつか見て行きたいと考えています。もう、皆さんお気づきのことでしょうか。私はこの箇所に非常に深い思い入れをもっています。それは単に、私がこの箇所が好きだからとか、ここから多くのことを学んでいるということだけでなく、ここに記されていることを正しく伝えないなら、それは教会にとって大きな問題であり、神が教会を建てようとしている時に、ここに書かれていることを私たちがしっかりと理解しないならば、それは大きな妨げになることを私は確信しているからです。それゆえに、ここまでの学びは非常に遅々たるものでした。今回もその通りです。14節から16節までをサーと見て、そこに書かれている内容をまとめて、一回のメッセージでお伝えすることも出来るでしょう。けれども、そのようにするなら、私は主の前に正しい責任を果たしているとは思えないのです。ですから、皆さんとここに書かれていることをゆっくり見て行きたいと思えます。

ここに書かれていることは非常に重要です。それをしっかりと知ることは私たちが教会を建てて行くときに必要なことです。これまでと同じように、私たちが見ようとしていることは「教会の建て方」です。教会の設計図がどのようなものなのかをパウロのことばを通して私たちは知ります。そして、それを通して、私たちはこの浜寺聖書教会を神が建てようとしておられる教会の設計図に沿って、正しく建てら

れることを心から願っています。今日は特にその中でも、その設計図に沿って私たちが建てて行くとき、具体的にどのような結果を見ることが出来るのかを見て行きたいと思います。みことばを読みます。

#### エペソ 4：11-16

**:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。**

**:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、**

**:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。**

**:14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられされたりすることがなく、**

**:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。**

**:16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。**

もうすでに何度も読んだ箇所ですから、皆さんはこれまでの学びを通してよく知って親しみを覚えておられることでしょう。今日見て行くことは、この4章11節からのアウトラインに沿って行くならば、4番目の大きなポイントになります。

1. キリストが賜物をもった者たちを教会にお与えになった。(11節)
2. キリストが教会に賜物をもった者たちをお与えになったのは目的を達成するため。(12節)  
それは、聖徒たちを整え、奉仕の働きをさせ、教会の建て上げるため。
3. キリストが賜物をもった者たちをお与えになったときに、キリストはその最終到達地点を示しておられた。(13節)

今日皆さんといっしょに見ることは、キリストが教会に賜物をもった者たちをお与えになったときに、キリストは予期すべき期待すべき結果をともお示しになったということです。

#### 4. 神の設計図に沿って教会が建て上げられて行くときに起こる期待すべき結果

私たちがこの箇所を細かく見て行く前に、理解しておかなければいけない大切なことがいくつかあります。日本語の聖書を読んだだけでは分かり難い事柄なのですが、私たちがこの箇所を正しく理解する上で非常に大切なことです。13節の最後に句読点{。}がついて、14節の初めに「それは、」とあって新しい文章が始まっているかのようです。最初に皆さんにお伝えしたようにこのエペソ4：11～16は実は原文では一つの文章です。それゆえに、本来なら、ここに{。}は付くべきではないのですが、ただ余りにもここは長い文章なので、翻訳者は翻訳をするに当たって分かり易いように、ここに{。}を付けたのです。新しく文章を区切ったのです。ですから、実際には11節からの内容が続いていて一つの文章であるということを私たちは覚えておかなければいけません。また、この日本語の訳を見ると、「それは、」と始まり、15節の終わりには「ためなのです。」という表現があります。そうすると、私たちはこれは何か「目的」のことを言っているのではないかと考えますが、実際はそうではありません。

文脈からこの一つの文章を見て行くときに、パウロはもうすでに目的を告げています。12節にそれが記されていました。では、いったい14-15節は何のことを話しているのでしょうか？それは「結果」です。そのことを理解した上で、私たちがこの箇所をよく考えてまとめてみると、このように読むことができます。このような意味合いで記されているのです。11節から「**こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師としてお与えになったのは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、その結果、私たちがもはや、子どもでなくなり、あらゆる点において成長するのです。**」。14-15節に書かれていることは「目的」ではなく「結果」なのです。そして同時に、これが結果であるゆえに、私たちは一つ大切なことを覚えておかなければいけません。先程から話しているように、もし、私たちが神の計画に沿って教会を建て上げて行くなら、私たちはこのような結果を教会の中に見るということをパウロは言うのです。言い換えるなら、確かに、ここには命令のことばはまったく出て来ませんが、このような結果が当然起こって来るゆえに、私たちはここに記されている事柄を命じられていることと理解してもおかしくないということです。つまり、これらの事柄は必ず起こらなければいけないこと、当然の結果だからです。神が「わたしはこうします。」と言われ、このような計画を立てられて、そして「そのように行なえばこうなります。」とパウロが告げる訳ですから、私たちがその計画を実践するなら必ずそれは起こって来なければいけないのです。「あなたはこうなりなさい」とパウロが言っていると捉えても全くおかしくない内容だからです。それゆえに、私たちは今日ここに書かれている事がらを真剣に考えて見て行かなければいけません。

もし、ここに書かれている事柄を私たちが自分たちの生涯の中で見出すことがないなら、次のうちの

どちらかが起こっています。それは、教会が神の計画、神の設計図に沿って教会を建てていないゆえに、これらの結果を見る事が出来ない。結果が現われていなければ、私たちはこの教会を神の設計図に沿って建てていないわけです。もしくは、教会が設計図に沿って建てられているにもかかわらず、皆さんがそれを正しく受け入れ、正しく実践しないという罪のうちに歩んでいるゆえに、これらの結果を見る事が出来ない。これら二つの内のどちらかです。なぜなら、これらは当然起こるべき結果だからです。そのことをよく念頭に置いて、パウロが告げる結果について考えて見ましょう。パウロはいくつかの結果を私たちに教えていますが、残念ながら今日見ることが出来るのは一番目の結果だけです。

### 1) すべてのクリスチャンは必ず成長する

パウロはこのように言います。14節「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、」と。「その結果、私たちはもはや子どもではなくなります」ということです。パウロがここで使っている「子ども」ということばは、新約聖書の中では往々にして「小さな子どもたち」、特に「赤ちゃん」を指して使われるのですが、実際に、このことばの使い方をよく見て行くと、これは生まれたばかりの赤子から性的に成熟する年齢、つまり、肉体的に結婚することができる年齢に達するまでの子どもたち、0歳から12～15歳位までの年齢を指して使われることばです。パウロは確かに、このことばを幼い小さな赤ちゃんのような子どもたちを指して使うこともあるのですが、Iコリント13：11では自分のことを指してこのように言っています。「私が子どもであったときには、子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どものことをやめました。」と同じことばを使っています。パウロは明らかに「わたしが赤ちゃんであったときには」とは言っていません。なぜなら、赤ちゃんでは「子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じ」ということは当てはまらないからです。成熟していないということを言っているのです。また、このことばが含む意味合いには、単に肉体的に未熟な人物、つまり、子どもを指しているだけでなく、その子どもたちがもっている子どもながらの特徴をも含んでいるのです。子どもの幼さと未熟さ、そのような特徴を含んでいます。つまり、このことばには単なる子どもというだけでなく、子どもであることのすべてを含んだ内容が示されているのです。

パウロはここで明らかに実際の子どもたちのことを話しているのではありません。パウロは霊的な人生、霊的な生涯において未熟なクリスチャンを「子ども」ということばを使って表わしているのです。そして、パウロは私たちは正しく教会の設計図に沿って教会を建てて行くなら、子どもではなくなる、必ず成長すると言うのです。この結果、つまり、すべてのクリスチャンは必ず成長するというその結果は、私たちにいくつかの非常に大切な、絶対に考えなければいけない事柄を示します。

### ○この結果が教える事柄

(1) 継続的に未熟であり続けること、幼子であり続けることはクリスチャンにとっては罪である。

「私たちがもはや、子どもではなくて、」という表現から私たちがはっきり理解することは、すべてのクリスチャンは霊的な人生を生まれたばかりの子どもとして始めるということです。だれであってもみな、「わたしはイエス・キリストを信じます。」と告白し救われたその瞬間、新しく生まれた赤ちゃんとして霊的な生涯が始まるとパウロは言っているのです。イエスはニコデモに対してこのように言われました。ヨハネの福音書3：3「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、すべての人たちは霊的な生涯を赤ちゃんとして始めるのです。それに例外はありません。けれども、救われたその霊的な赤子の状態で留まり続けることは、神の計画に反することであると私たちはよく理解しておかなければいけないのです。

事実、このような未熟な状態に留まり続けることは、新約聖書の著者たちが非常に厳しく人々を責める事柄です。ヘブル5：12-13にはこのようなことばが記されています。「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。：13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。」、ヘブル人への手紙の著者は、ここではっきりと私たちに告げるのです。この手紙の読者たちの中には年数だけは明らかに非常に長く経っているにもかかわらず、いつまで経っても聖書の真理にしっかりと根ざす事が出来ない、霊的なミルクしか飲む事が出来ない幼子たちがいたのです。この手紙の著者は彼らに対して非難したのです。そして、霊的に成熟する必要があることを明らかに強調するかのように、その後の6：1でこのように告げています。「ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、」、このヘブル人への手紙の著者以上に厳しいことばを、パウロは霊的に未熟な者たちに向けます。これまでも何回か見ましたが、Iコリント3：1-3にパウロはこのようなことばを記してコリントの人たちを責め、非難し、戒めています。「さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリスト

にある幼子に対するように話しました。:2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。:3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属していません。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。」と、これは非常に厳しい責めのことばです。彼らの教会が様々な問題を抱え混乱の中にいたのは、彼らが霊的に未熟で幼子だったからです。なぜ、このような厳しいことばを新約聖書の著者たちは使うのでしょうか？なぜ、クリスチャンたちに向けて、救われているクリスチャンたちに向けて「あなたがたはどうして幼いままなのか？」と厳しいことばを向けるのでしょうか？

その理由はエペソ 4 : 14 に記されています。それは、クリスチャンは必ず成長しなければならないからです。レオン・モリスという神学者はこのことに関してこのように記しています。「人々が初めて、最初にクリスチャンになったときに未熟さがあることは当然のことである。しかし、その状態に留まり続けることはあり得ないことだ。」と。それゆえに、ペテロはその手紙の中でこのように告げています。

I ペテロ 2 : 2 「**生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。**」と。クリスチャンはみな御霊によって生まれ変わります。赤ん坊として、霊的な新生児として。そして、そのクリスチャンたちはみことばを慕い求めて、それを乳として飲むゆえに成長して行くのです。それがペテロが私たちに教えることです。教会の中であって私たちが往々にして見る問題は、今私たちが考えて来ている大切な事柄に対する誤解によって起こって来る場合が多いのです。多くのクリスチャンたちは、救い、信仰をもつこと、救われること、回心することが最終到達地点だと考えているのです。つまり、救われた瞬間に私たちはゴールテープを切って「到着しました」と言うのです。ところが、聖書が教えることは「そこが霊的な生涯のスタート地点だ」ということです。

皆さん、もし、私たちがこのことを混乱するなら大変なことになると思います。救いは霊的な生涯の終わりではなくて、私たちの人生のゴールではなくて、私たちの霊的な生涯の第一歩でしかないのです。始まりなのです。よく考えてみてください。もし、皆さんが生まれたばかりの赤ん坊に、3歳の子どもに、大人がしなければならない様々な働きを与えて、それをするようにと厳しく命じるなら、その子どもは果して成長するのでしょうか？押しつぶされませんか？潰れてしまって前を向いて歩いて行くことが出来なくなりませんか？皆さん、その様なことをするのは子どもを殺すことだけで、子どもの成長を促すことではないのです。新しく生まれた信徒たちは、必ず「**純粋な、みことばの乳**」によって養い育てられ、しっかりとしたキリスト教のその信仰の真理に基づいて生きて行くことが出来るように成長しなければいけないのです。でも、私たちは言いませんか？「救われたのだから奉仕しなさい。これもしなさい、あれもしなさい、やるのがたくさんあります、あなた救われたのだからどうぞ、どうぞ。」と。

生まれたばかりの赤ん坊に、私たちは20キロも30キロもある荷物を運びなさいと言うのです。このようなことは起こりませんか？有名人が救われました。そうすると、多くの教会がその有名人に群がるのです。「私の教会に来てお話してください。」「私の教会にも来てお話してください。」「この集会にも是非。」と。本来、そのようなことはされるべきではありません。幼子が出来ることがあります。私たちは子どもたちにお手伝いをさせます。子どもたちはそこからいろいろなことを学んで行きます。でも、やるべきでないことがたくさんあります。させてはいけないことがたくさんあります。皆さん、家の中で最も高価な食器を小さな子どもに「テーブルまで運んでね。」と頼みますか？いくつもの高価なグラスをお盆に載せて運ばせますか？子どもたちはまず成長しなければいけないのです。与えられる働きにふさわしい成熟を見せて行かなければいけないのです。

また皆さん、たとえ、この世の中でどれ程立派な人物で、どれだけ成熟していて、どれだけ年を重ねて、多くの人から尊敬を受けている人であったとしても、クリスチャンになったその瞬間は、その人は霊的に未熟な人物でしかないのです。その人はひょっとすると多くの人から尊敬を受けるような立派な人格者かもしれません。その人はひょっとすると多くの人たちを教えることが出来る素晴らしい教師かもしれません。けれども、霊的な生涯において、その人は未熟な新生児でしかないのです。その人にはこれからハイハイして歩くことを学んで様々な働きを十分に成し遂げて行くことが出来るように、成熟して行くそのプロセスが必要なのです。そのような者になって行くためには何が必要ですか？パウロは言います。「成長が必要です。」と。すべてのクリスチャンは子どもが成長して行くように成長しなければいけないのです。私たちはそのことをよく覚えておかなければいけないのです。もし、成長しないなら、それは神の計画に反することであって、罪です。

でも、いったいどのようにして私たちは、だれが信仰において子どもであり、だれが子どもでないと判断出来るのでしょうか？どのようにして見分けるのでしょうか？いったい、どのようにしてその霊的な未熟さを知ることが出来るのでしょうか？パウロはそのことに答えて、非常に分かり易く、非常に描写的な

表現を使って、私たちに霊的に未熟な者がどのような者かを説明してくれています。

## (2) 幼子としての特徴を避ける。

クリスチャンはすべて霊的に成長するというその結果をよく考えるときに、私たちが真剣に吟味しなければいけない二番目の事柄、それは幼子の特徴というものを避けなければいけないということです。幼子の特徴を持ち続けてはならないのです。なぜ、私たちはこのような特徴をもってはいけないのでしょうか？なぜ、それを私たちは避けなければいけないのでしょうか？その理由はパウロの表現の中にはっきりと表われています。二つあって、一つは「不安定さ」、もう一つは「だまされ易さ」です。エペソ4：14は、日本語ではその語順が原文と大きく違います。この箇所は確かに訳しづらい箇所ですが、原文では「**波にもてあそばれたりする**」という表現が最初に出て来て、その次に「**教えの風に吹き回されたり**」と続きます。これらの二つは、子どもの成長につれて段々と無くなって行く事柄を表わしています。別の言い方をするなら、これら二つの特徴は子どもたちが元来もっている特徴です。パウロは「あなたがたが成長して行くならこのようなことから離れて行く。つまり、私たちはこれらの特徴から身を避けなければいけない、そこから成長してそこから抜け出して行かなければいけない。」と私たちに問いかけているのです。

### ○子どもたちの特徴

#### (a) 不安定さ

子どもたちは非常に不安定です。このことをはっきりと示そうとしてパウロは非常に分かり易い表現を使いました。「**波にもてあそばれたりする**」と長い日本語ですが、実は、原文ではたった一つの動詞です。この動詞はここでしか使われていないのですが、これと非常に似たことばがいくつかの箇所で使われています。その中の一つは皆さんがよくご存じの話の中に出て来ます。イエスがガリラヤ湖畔で働きをされていたとき、働きを終えてイエスが弟子たちといっしょに船に乗ってガリラヤ湖へと出て行きます。漕ぎ出して暫くすると湖は大荒れになりました。天気が変わったのです。激しく吹き荒れる嵐の中で、弟子たちは風が巻き起こす波のゆえにこの船はもう沈んでしまうと大パニックを起こします。その嵐の中での波の状態がここで使われていることばと同じ語源をもつことばなのです。想像出来ますか？嵐が余りにも激しかったので、ガリラヤ湖畔で漁をすることを仕事としていた何人かの弟子たちすら、恐れおののいて大変な状態になったのです。船は波にもまれてあちこちへ揺れ動き、いつ沈んでもおかしくないような不安定な状態にあるのです。想像することは難しくありません。確かに、私たちはこのような体験をしたことは余りありません。実際に、私たちが船に乗ることがあったとしても、このような大しけの中で船に乗ることはありません。乗ったとしても、パウロがここで想定するような小さな船ではないでしょう。パウロにとってこの表現を使うことには深い意味があったことだろうと私は想像します。なぜなら、パウロはこの手紙をローマから書いているのですが、ローマに行く途上で、使徒の働き27章に記されていることですが、パウロは非常に大きな嵐にあって今にも沈んでしまうような状態の中で、波にもまれながら2週間もさまよったのです。パウロは個人的にそのことを体験したのです。船に乗っていた人たちは自分たちはもうダメだと思いました。彼らは船に積んであったあらゆる荷物を海に投げ捨てて何とか助かろうと必死だったのです。そのような体験をしたパウロが言うのです。子どもたちのもっている特徴は、まるで嵐の中で波にさらされ、あっちへ行きこっちへと行きと不安定な状態で、いつ沈んでもおかしくないような船のようなものだ。

二十世紀最高の説教者と言われるイギリスの有名な牧会者だったロイド・ジョーンズは、この子どもたちの不安定さに関して非常に深い洞察力をもってこのように記しています。「子どもたちは気まぐれで気が変わりやすい。彼らは一瞬にして大きな笑いから泣き出す。泣いていたかと思うとすぐにまた笑い出す。彼らはあるものをこよなく愛していたにもかかわらず、次の瞬間には、同じものを嫌いではないと言う。彼らはありとあらゆる時に一つの状態から次の極端な状態へと変わり続ける者たちである。子どもたちはまた衝動的であり自制心がない。忍耐ということばを彼らの生涯に見ることは出来ず、自分たちの感情を抑えることをしない。それゆえに、子どもたちは自分たちの感情と自分たちのもっている雰囲気によって様々な所へと流され続けて行く。彼らは自分たちに起こる生涯の様々な出来事に対して全く何の抑制もしないで反応する。それゆえに、子どもたちは起こる出来事に対して過敏で過度な反応をする。例えば、彼らは自分の持っているおもちゃが壊れたことがまるでこの世の終わりかのように反応する。子どもたちは何かを愛するか何かを憎むかの両極端な中において、その間にいることが殆どない。彼らは自分たちの見解が絶対に正しいという非常に意固地な部分があるにも関わらず、ちょっとしたことでそれと全く反対の意見に変えて、あたかも、それはズーと自分が今まで思っていた考えであるかのように、また、その逆の意見を意固地に主張する。」と。そのような方はこの中にいませんか？

皆さんよくご存じのはずです。子どもたちがたくさん集まっているとそこに平安がありますか？そこ

にあるのは混沌と混乱と問題です。子どもたちは泣き叫ぶのです。泣き叫んでいると思うと大きな声を立てて騒ぎ始めます。笑って、いっしょに大きな声を出しておしゃべりして、ちょっとしたことで喧嘩が始まり、まただれかが泣き出し、それが連鎖反応をするかのようにならぬ所に広まって行くのです。なぜ、このようなことが起こるのでしょう？これらのことをリストにして上げた後、ロイド・ジョーンズ先生はこう言います。「子どもたちの生涯は人生における外面的な事柄に基づいて行なう。彼らは一歩下がって、起こっている出来事を熟慮しそれを正しく判断することが出来ない。」と。なぜ、一歩下がれないのでしょうか？なぜ、ゆっくりじっくり考えて正しく物事を判断できないのでしょうか？なぜ、壊れたおもちゃ一つで彼の人生が終わりにはならないことを理解できないのでしょうか？子どもだからです。未熟だからです。彼らは自分たちの目の前にあること以上のことを考えることが出来ないのです。パウロは言います。「霊的に未熟な大人たちは子どもたちと同じだ。」と。目の前にある様々な人生の事柄を前にして、一歩下がって霊的な真理に基づいて、神のみことばの真理に基づいて物事を判断することが出来ないゆえに、まるで荒波にもまれる小舟のようにこっちに行きあっちに行きいつ沈んでもおかしくない不安の中で人生を過ごし続けると。「このような特徴をもっているはいけない。そこから成長しなければいけない！」とパウロは言います。私たちはこのような特徴を示し続けるべきではありません。大人たちが子どものように行動しているのを見ると私たちは「成長しなさい！もっと大人になりなさい。」と思うではないですか！パウロは私たちのことを指して「大人になりなさい。」と言うのです。

### (b) だまされ易さ

パウロは「**教えの風に吹き回されたり**」ということばをもってこのことを教えます。このことばは風によってぐらつく様子を表わしています。ある注解者は「これは風向計、風見鶏のようなものだ」と言います。つまり、一方から風が吹くとその方へスーと向きを変えて、また別の方向から風が吹くとその方向へと向きを変えるのです。パウロは非常に分かり易く、子どもたちの状態、霊的に未熟な者たちの状態を示しているのです。そして、パウロはこのような心変わりの原因となるものが「**教えの風**」だと言うのです。原文では「**あらゆる教えの風**」とあります。先ほど紹介したレオン・モリスはここで使われている動詞についてこのようなコメントを残しています。「この風に吹き回されるという表現は、目的地に向かって全く前に進むことがないようにぐるぐるいろいろな方向へと向きを変えているだけの状態だ」と。風向きによって行く場所がどんどん変わって行くなれば、絶対に目的地には到達しません。

考えてみてください。私たちは前回何を学びましたか？13節に記されていました。私たちが到達すべき所は「**信仰の一致、教理における一致**」でした。根幹的なキリスト教の真理において、私たちが正しい確かな見解をもってそこにしっかり一致をもって留まることでした。でも、霊的に未熟な者たちはそれが出来ない、しないのです。なぜなら、あらゆる風によって彼らは向きを変えるからです。パウロは言います。「成長しなさい」と。なぜ、私たちはこのようにあらゆる教えによってもあそばれてしまうのでしょうか？だまされて、風向きを変えてしまうのでしょうか？なぜ、子どもたちはこのようなだまされ易さという特徴をもっているのでしょうか？ロイド・ジョーンズ博士はまたすばらしい洞察力をもってこのことを観察されてこのように告げています。「子どもたちが容易にだまされるのは、それは彼らが無知だから、彼らは知識に欠けているので正しい基準を持つことが出来ない。それゆえに、起っている事柄を吟味し判断することができない。それにも関わらず、彼らは教えられることを嫌う。特に、訓練に時間がかかるようなことはできる限り避けようとする。」と。でも、彼らは自分の知識と自分の能力に自信を持っているのです。だから、学ばなくても良い、大丈夫だと言います。本当は知らないのに知っている振りをするのです。本人は知っていると思っているのです。彼らはそれゆえに、非常に高慢で自分たちの見解が確かだと、そのような確信を勝手に思い込んでいるのです。また、子どもたちはいつも新しく好奇心を心から好みます。それは子どもたちの内にいかに正しい価値観がないのかを明らかにします。子どもにピカピカに磨き上げた十円玉と、クシャクシャに丸めた古い一万円札とを見せて、どちらが欲しいかと聞くと、彼らは間違いなく十円玉を取ります。なぜなら、それは輝いていて新しく楽しんで見えるから、子どもたちは娯楽と興奮を心から楽しむからです。

だから、子どもたちはいつも家にいて自分たちの生活を厳しく取り締まる両親よりも、一年に何回かだけお土産を持ってやって来る親戚のおじさんの方が好きなのです。楽しいから、嬉しいから、いっしょにいて興奮できるから、だから、子どもたちはだまされ易いのです。肉体的にも霊的にも幼い者たちは常に新しいものの方が良いと、特に、それが自分たちを楽しませるものであるならなおさらです。困難で忍耐が必要な厳しい訓練よりも、彼らは次に出て来る新しいものに興味を持つのです。教えの風は様々な所から様々な形で吹き荒れています。子どもたちはそれを正しく吟味する能力に欠けています。知識がないから、新しいものが好きだから、正しい判断、正しい価値観をもっていないからです。それゆえに、彼らは決して目的地へと前進して行くことが出来ないのです。

クリスチャンとしてのゴール、目標とする到達地点、教会として到達すべき場所は「信仰の一致」です。「教理における一致」でした。けれども、もし、私たちが子どもの特徴をもったままでいるなら、私たちは絶対にそこにたどり着くことはないと言うのです。そこに向かって足を進めることがないと。だから、私たちは成長しなければいけないと思いませんか？そのような子どもでなくなればいけないと。では、いったい、どこからこの風は吹き荒れているのでしょうか？私たちは三番目にそのことを考えなければいけません。

### (c) 霊的に未熟な状態は悪魔の攻撃を招く

確かに、未熟な者たちをいろいろな方向へと向けてしまう教えは、きちんとした良い思いをもって、出来るだけ神の前に正しいことをしたいと考えていながらも、正しい知識をもたないがゆえに間違っただけを教える人たちから出て来ることもあります。動機は良いけれど間違っただけを伝えることがあります。でも、パウロが問題にして取り上げているのはそのようなことではありません。むしろ、私たちが真剣に注意しなければいけない非常に危険なものです。それは偽教師たちです。間違っただけを意図的にする人たちです。パウロはこの「**教えの風**」がどこから出て来るのかに関してこのように告げています。

**「人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により」**と。私たちはなぜ成長しなければいけないのでしょうか？それは霊的に幼い状態で留まり続けることは、悪魔に攻撃の機会を備えることだからです。だから、私たちは霊的に幼子の状態で留まり続けてはいけません。このことこそが私たちが真剣に考えなければいけないこと、「成長しなければいけない」ということから学ぶべき三番目のことです。

パウロの焦点は先ほども言ったように偽教師たちと彼らの教えです。それは霊的に未熟な者たちをだまし、彼らが進んで行こうとする方向を大きく変えます。**「悪巧み」**と訳されていることばがあります。このことばは実は原文を直訳すると「サイコロ遊び」と訳すことが出来ることばです。サイコロを使ってギャンブルをしてお金を稼ぐ人たちのことです。この当時、このことばがどうして**「悪巧み」**と訳されるのでしょうか？サイコロを使ってギャンブルをしていた人たちの多くが、サイコロに細工をして様々な技術を使って「いかさま」をすることによって、自分たちがその勝負に勝つことが出来るように悪巧みをしてきたからです。それが一般的な知識だったのです。だから、ここで**「悪巧み」**と訳すことは間違っていないのです。なぜなら、パウロが言っているのはまさにそのことだからです。

次の**「策略」**ということばを見てください。このことばは「何をしてでもどんな手段を使ってでも、自分の得たいものを得るその願望とそれを実際にやり遂げる能力」のことです。**「人を欺く悪賢い策略により」**、つまり、ここでパウロが言わんとすることはこういうことです。偽教師たちがいて彼らが教えるのです。彼らが教えることは正しい事柄ではなく間違っただけです。人を欺く事柄で、彼らはそれを巧妙な手段で細工して、まるで真理であるかのように見せかけながら、自分たちが得たいため、自分たちの利益のために、それを人々に教え込み信じさせようと語るのです。霊的な未熟な人たちはそれを喜んで受け入れるのです。風が吹く方向へみな向いて行くのです。

この**「策略」**ということばは、サタンがエバを誘惑したときの巧妙な手段、その策略について語られるときに使われることばであり、イエスをだまそうとして祭司長や律法学者たちが策略を巡らせて質問したときに、その質問に関して説明するために使われることばです。(Ⅱコリント 11：3 **「しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。」**。ルカ 20：23 **「イエスはそのたくらみを見抜いて彼らに言われた。」**)。未熟であると何が起きますか？そのようなことばに毎回毎回引っかかります。成熟していないゆえに、霊的に未熟な幼子であるゆえに、あらゆる教えがまるで真理であるかのように受け入れ、それに向かって熱心に行こうとするのです。

パウロは人々に対して自分がどのように接したのかということと、偽教師たちがどのように人々に接しているのかを対比して、このようなことばを語っています。Ⅱコリント 4：2 **「恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。」**。パウロの働きは偽教師たちの働きと違ったのです。パウロは悪巧みに入らなかったのです。いろいろな細工をして人々を信じ込ませ自分の利益にしようなどとは考えずに働いたのです。また、彼は神のことばを曲げることをしなかったのです。偽教師たちがすることはパウロがしたことと反対です。彼らは悪巧みをし自分たちの利益のためにすべてを為し、神のみことばを曲げたのです。

皆さん、なぜ、彼らの策略がこれ程上手にキリスト教会に大きな問題を投げかけもたらすのでしょうか？その理由は一つです。クリスチャンが未熟だからです。霊的に成熟しているなら、大人であるなら、子どもたちが引っかかる様な嘘偽りをしっかり見抜けるではないですか？皆さん、子どもが持っている物を持っていて、それをどうしても欲しいと握りしめているときに、私たち大人は巧妙な口調で子どもたちが興味を引きそうなものを目の前に見せて「交換して上げるよ」と言いませんか？全く役に

立たない意味のないものでもって簡単にそれを取ることができます。でも、大人ならそんなに簡単にはいきません。パウロは言います。「成長しなさい」と。

皆さんこの危険は非常に大きな危険です。間違った教えの嵐は今も吹き荒れています。そして、新約聖書は何度もクリスチャンたちに対してこのことを警告します。例えば、今は見ることが出来ませんが、後でお読みください。使徒の働き20：29－30にはエペソの教会の長老たちに対してパウロは言います。「**私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中には入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。：30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。**」、あなたがたをだます者たちが外からも出て来るし、あなたがたのうちからも現われる、彼らはいろいろな曲がったことを語って自分たちの方へと引き込もうとする。だから、注意しなさいと警告します。また、パウロはローマ人への手紙の最後にこのような警告を与えています。ローマ16：17－18「**兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。：18** そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましているのです。」、あなたがたの中から惑わす者たちが出て来る。彼らは「自分の欲に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましている」、だから、注意しなさいと。ガラテヤ人への手紙1：6－7「**私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。：7** ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるのではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。」、もうすでにガラテヤの教会にこのような間違った教えが入り込んでいることを告げています。偽りの「ほかの福音」を告げる者たちがいること、しかも、ガラテヤの人たちはそれを信じていると言います。Ⅱペテロ2：1でも「**しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。**」、また、ユダ3－4節にも同じことが記されています。「**愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手紙を書こうとして、あらゆる努力をしましたが、聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。：4** というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。」。彼らはまるであたかもクリスチャンの一人であるかのように、むしろ、良い立派なクリスチャンであるかのように教会の中に紛れ込み、ひそかに忍び込んで、人々に偽りを告げるのです。

皆さん、偽教師たちは目の前にサインボードを持って「私は偽教師です」と掲げていません。彼らの名刺には「偽教師」というタイトルは付いていないのです。ちょうど、サタンが光の天使に姿を変えて現われることが出来るように、偽教師たちは善良なクリスチャンであるかのように、立派なすばらしい信仰者であるかのような顔をして私たちの中に紛れ込み、私たちに間違った教えをします。それにどのように対応するのですか？私たちが成長しなければいけないのです。子どもであり続けてはいけません。すべての間違った教え、偽教師たちの働きの背後にはサタンがいます。サタンの目的は「信仰の真理にしっかりと立って神の栄光を豊かに現わしながら生きること」を妨げることです。それが彼らの目的です。私たちが未熟であり続けるなら、私たちは絶対にその様な生き方をすることは出来ません。なぜなら、私たちは人生の様々な荒波にもまれて不安定な生涯を送り、偽教師たちの様々な間違った教えによって、あらゆる方向を向いて歩き始めるなら、どこに神の栄光が現われますか？人間の子どもたちと違って、霊的な未熟さはなかなか見分けることができません。私たちはハイハイをする赤ちゃんに大人と同じような生き方をしなさいとは言いません。姿、形が彼らが子どもであることを私たちに思い起こさせます。でも、霊的に未熟な人物は分かりにくいではないですか？

私たちは吟味しなければいけない。よく考えなければいけないのです。私たちは不安定さをもっていないのでしょうか？一歩下がって物事をしっかりみことばに沿って考え、それに沿って応答することが出来るような生き方をしているのでしょうか？私たちは耳にするありとあらゆることをあたかも真理であるかのように、みことばの真理に則して図ることをしないで、鵜呑みにしていませんか？ありとあらゆる方向に向いて、これが正しいあれが正しいと言ってフラフラしないのでしょうか？もし、私たちがそうするのなら、私たちは霊的に未熟な者であり、霊的に未熟な者であるなら、最初に話した二つのうちの一つです。この教会が皆さんを霊的に成熟させる様にみことばの真理を正しく解き明かしていないか、もしくは、皆さんがその真理を聞きながらそれに従って歩んで行こうとしていないかのどちらかです。

子どもたちは成長します。パウロは言います。「靈的に生まれ変わった者たちも同じように成長する」と。その成長は必ずみことばの教えによって成されます。そのことをパウロは15節から伝えて行こうとします。次回、みこころならば、神はその機会を備えてくださり、皆さんとともにそのことを学んで行くことが出来ればと願います。皆さん、よく覚えておいてください。未熟な者、子どもが子どもを導くことは出来ません。同じように、靈的に未熟な者が靈的に未熟な者を導いて行くことは出来ないのです。だから、私たちは成長し成熟して、信仰の一致、キリストに関する知識の一致、完全なおとなになることを目指して、毎日成熟して行かなければいけないのです。行きましょう！そうやって行きましょう！なぜなら、それが神が教会に与えられた計画だからです。